

けいはんな情報通信研究開発支援センターの活動概要

通信・放送機構（通称 T A O）は、総務省所管の認可法人として、情報通信分野における研究開発とその支援を進めてまいりました。

この施策の一環として、「けいはんな情報通信研究開発支援センター」を、関西文化学術研究都市（愛称けいはんな学研都市）に平成 11 年 5 月に開設し、超高速マルチメディア社会の早期実現を図るため、次世代ネットワークであるギガビットネットワークと共同利用型研究施設を、大学、企業、研究機関、地方自治体等に開放してまいりました。

けいはんな学研都市は、高度な知識、技術を持つ様々な分野における研究機関や大学等が多数集まる、先端的な科学技術をはじめとする学術の情報と文化発信の中心的地域であります。なかでも情報通信分野に関しましては、産官学の連携によるネットワーク社会の健全な発展の関西経済再生への貢献が大きく期待されているところであります。

当センターでは、次世代ネットワークであるギガビットネットワークとともに最先端の機器を導入し、情報通信分野で起業を模索されている事業者から研究機関の事業・研究開発まで幅広く支援することを目的として事業を展開してまいりました。

近年、インターネットの普及を背景に、より高速で大容量の情報通信環境が求められるようになりました。そのような社会情勢において、共同利用型施設として、御利用いただく方々の求めているものが何であるのか、そのニーズに対して当センターで何ができるのか、整備した設備の他にどのような効果的な支援があるのかと、試行錯誤を繰り返しながら、日々努力してきたところです。

利用価値のあるラボ施設としての環境を整えるため、開所当初から適宜の機器更新と利用促進及び技術支援など人的努力を惜しむことなくそそぎ、この 5 年間で積み上げてきた実績は、100 件の施設利用数、学会発表など研究成果に及んだ案件が 34 件、また施設見学について 727 団体 7954 名と、予想を遙かに上回る成果を上げることができました。

また、実に様々な分野から多数の利用がありました。このことは、T A O が掲げた超高速マルチメディア社会の早期実現という指標について、多くの方々の知るところとなり、さらにはその必要性について確かな認識をもっただけだと言えます。これも、長期利用者の御理解・御協力と各社により派遣された研究指導員の地道な努力によるものと考えております。

今後は、当センターで築き上げた事例が良き先例として、次なる共同利用型施設の運営や情報通信分野の研究開発に役立てていただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、利用者及び見学者の拡大に御協力いただいた関西文化学術研究都市推進機構及び株式会社けいはんなを初め関係者の方々の御支援に深く謝意を表します。